

発行所
広島市東区二葉の里
2丁目6-25
明星院
TEL 082-261-0551
FAX 082-262-1827

明星院だより



暑中お見舞い 申しあげます

令和八年 猛暑

草葉の陰からのお盆

「草葉の陰から見守っている」

この慣用句に見えるように、日本人は昔から亡くなった人がいなくなるとは考えませんでした。

姿形はみえないけれど、どこか遠いところに「存在」しているものとして亡き人を捉えていたのでしょう。

お盆は、そんな私たちの思いが形になった伝統的な風習です。

迎え火の灯に導かれ、ご先祖さまが早く帰ってくるようにとキュウリで馬を作り、懐かしの家族にもとに会いたいと願う人が帰ってきます。そして、お土産をたくさん持ってゆっくり帰ってもらうようにナスで牛を作ります。

それは先祖と過ごす

日本の夏の数日間



人間は大切な人を失った悲しみの大きさ故に「いのちの尊さ」「生命の尊厳」を実感し、大切な人が病み・老い・亡くなった事実を凝視することで「無常の現実」に気づき、大切な人がいなくなった悲しみや寂しさの大きさを大袈裟の大切さや、ご縁の中に生きている事実を言葉や教えを通してではなく、まさに疑いのない事実として感じ取ってきました。

この事実を深く心に刻み、ご供養という営みを通して生き方との「いのち」の繋がりを大切にしてきたのです。

「家族が今こうしてあるのは、それぞれの努力も去ることながら、いろいろな方々の支え、そして何より両親・先祖の労苦や遺徳・加護のお陰」と感謝し、忙しさの中でつい疎かになっていた先祖様のご供養を営むべく我が家にお帰り頂き、生きている家族も亡くなった先祖さまも同じ時を共有し久々に集まった家族が、それぞれに頑張ったことや成し得たこと、辛かったことや失敗したことなどを語り合い、同時に今は亡き人や先祖を追慕し生命の真相を深く感じ、その教えや生きざま、人間性などを再確認しそれぞれの日常に生かしていくとても重要な年中行事で心の安らぎを確立せんとするのがお盆の行事です。

お盆に込められた先祖への気持ちを受け継ぎ、その想いを守り伝えるべきものです。

先祖を導くお盆の灯りは、決して消えることのない祈りの燈火です。

締切
九月十七日(木) 当選者のみ郵送で通知

募集
九月一日より
メール 1350@rcc-net
ハガキ 〒730-8504
広島市中区基町21-3
(株)中国放送ラジオセンター「ミミさんぽ」係
代表者の住所・電話番号・参加人数1名or2名
参加者全員の氏名を明記

概要
広島城の鬼門(北東)にあたり、歴史ある社寺が多く残るまち、二葉の里。「二葉の里歴史の散歩道」として、地域おこしを行うこのまちで「歴史」と「地域」「路上観察」についてのトークイベントを行う。

RCC『おはようラジオ×Grandeひろしま
コラボ トークイベント「ミミさんぽ」
来る十月十一日(日) 午前十時〜十一時三十分
に参加者五十人によるトークイベントが、当山本堂及び庫裡に於て開催されます。
当日は、おはようラジオMC本名正憲アナ・Grandeひろしま平木久恵編集長・二葉の里歴史の散歩道ボランティアガイド代表・当山住職が登壇し、広島藩と二葉の里について、明星院の歴史と見どころ、七福神について放送されます。特に普段非公開の庭園や庫裡のふすま絵・什宝物を展示し、観覧いただきます。

【令和8年度 維持会計 決算報告】				
明星院の護持運営のため、檀信徒の皆様より本年から護持会費をご出宝いただいております。皆様のご高配に衷心より御礼申し上げますと共に、今後ともご理解ご協力をお願い申し上げます。				
収入		支出		備考
護持会費	858,000	宗派課金	324,000	本山への賦課金 広島支所費
霊園管理費	1,532,000	造園費	918,000	植木手入料
当山拠出金	2,876,995	報酬委託費	4,024,995	シルバー人材センター ALSOK警備保障
合 計	5,266,995	合 計	5,266,995	

編集後記

☆「蹴球に狂ふ列島青嵐」サッカー・W杯で日本は一次リーグを突破するも決勝トーナメントでブラジルに惜敗。いつか必ず最高の景色を・・・。

☆熊は現れませんが、数年前には境内に小鹿が迷い込み霊園上の樹木で猿が目撃されました。猪と瓜坊は毎年筍を食べるに裏山に出没し狸も苔下のミミズを狙って掘り起こします。難儀なことばかり。

☆世界的に紛争が止まぬ荒んだ時代においてせめて心豊かにしてヒロシマから平和への精神を発信し祈り続けたいと思います。

☆早くも1年の折り返し地点が過ぎました。暑い長い夏が予想されます。健康に留意して乗り切りましょう。

被爆後最後の復興事業

聖天堂の再建を発願

昨年は、被爆八十年を迎えました。当山では三代に亘る住職が伽藍の復興事業にその生涯をかけて取り組み、現在の輪奐の美を整えてまいりました。唯一残っていたのが聖天堂でしたが、このたび篤信者の方が是非にと願ひ出されました。

本堂前右側に既に石垣は完成しており、左記図面のような小堂の新築を発願しました。

本堂前左側には、当山鎮守稻荷大明神と二福神堂が一昨年移設を終えており、本堂前両脇を荘厳することになります。

二葉の聖天さん

全国には親しみを込めて『○○の聖天さん』とよばれ信仰を集めている寺院があります。奈良では生駒の聖天さん・東京浅草の待父山の聖天さん・四国八十八ヶ所第八十五番八栗の聖天さんなどが特に知られています。当山の聖天さんは被爆後に本堂内から発見された靈天で、現在は護摩堂内に仮安置されています。正しくは大聖歡喜天と称えます。これを身近に親しみを籠め略して聖天さんと呼びしているのです。



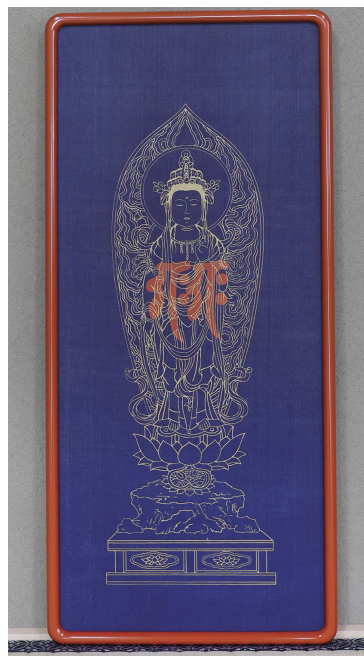
聖天厨子

聖天さんは、私達が持つ様々な現世の願いを余すところなくかなえてくださる尊天で、その靈験あらたかな事は人の良く知るところであります。又、十一面觀世音菩薩が聖天さんの本地仏（人々を救うために現れた聖天さんの本来の姿）であるところから、堂内に共に安置併祠し奉仕の誠を捧げるものであります。

どうぞ当山を詣でられ、神仏との御縁を機としてあらたかな『二葉の聖天さん』の御本誓である現世の御利益を充分に授かり、その御縁によって誠の信にいたられますよう念じてやみません。

あらたかな神仏は有縁の靈地に奉祠しなければ、充分その御威徳を顕すことができない。

まことに信仰の有難さは、身をもってその道を歩みえた者のみが知る喜びと、そして安らかさなのであります。



十一面觀世音菩薩

金剛台掌

追悼

高野山無量光院第二十一世住職
総本山金剛峯寺元執行長

土生川正道前官御房を偲ぶ

山主の師僧高野山無量光院土生川正道大僧正が、去る四月十九日心不全のため遷化されました。世寿九十五歳。無量光院が芸州浅野藩の菩提寺で当院とも関係が深い御縁で昭和四十九年から入寺し修行僧として四年間住み込み、行住坐臥の指導を賜りました。爾来五十二年間に亘り人生訓の教導を賜りました。私の今日があるのは、全く師僧のお陰で、心より深謝申しあげると共に謹んで哀悼の誠を捧げます。



ローマ法皇ヨハネ・パウロ二世との謁見
於、パチカン、サン・ピエトロ大聖堂
平成7年8月



四国八十八ヶ所靈場
徒歩巡拝を結願し御礼参り
昭和五十九年三月十三日

花まつりを厳修しお釈迦様の生誕を祝う 令和八年四月五日(日)

当山々主が、本年の広島市仏教会々長を務めている関係で当番宗として真言宗が担当して、明星院会館を道場に市内寺院を職衆にて執行されました。

併せて仏像ナビゲーターの政田マリ先生を招聘して研修会を行い、その後市内寺院（三瀧寺・不動院）を参拝いたしました。



女人みな

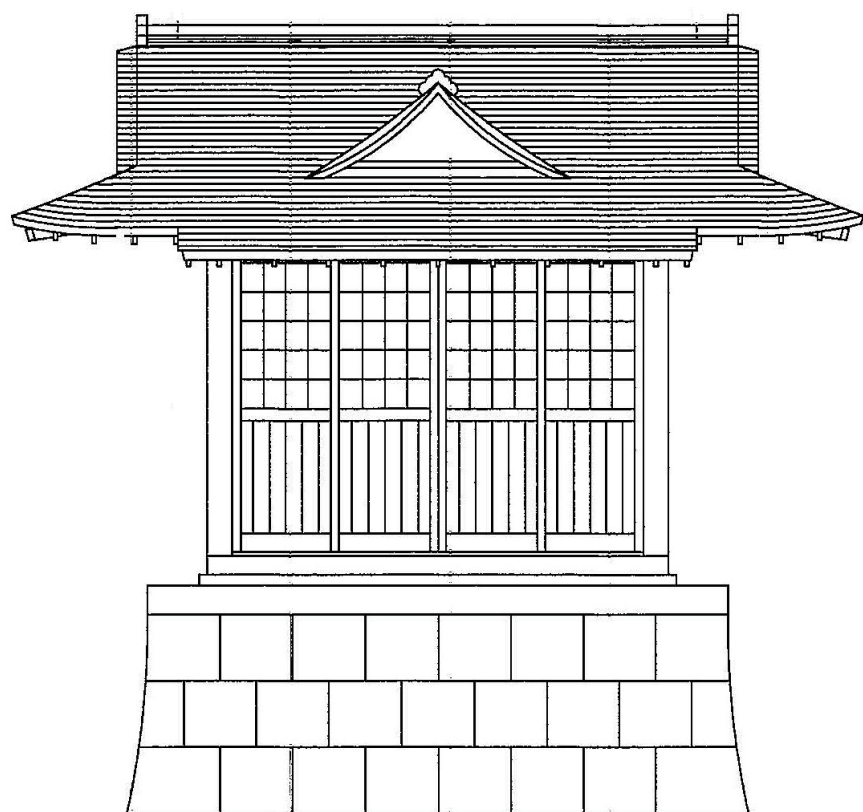
甘茶汲むとき

仏母かな

石楠

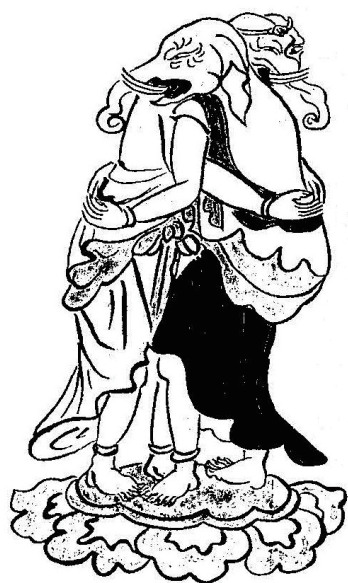
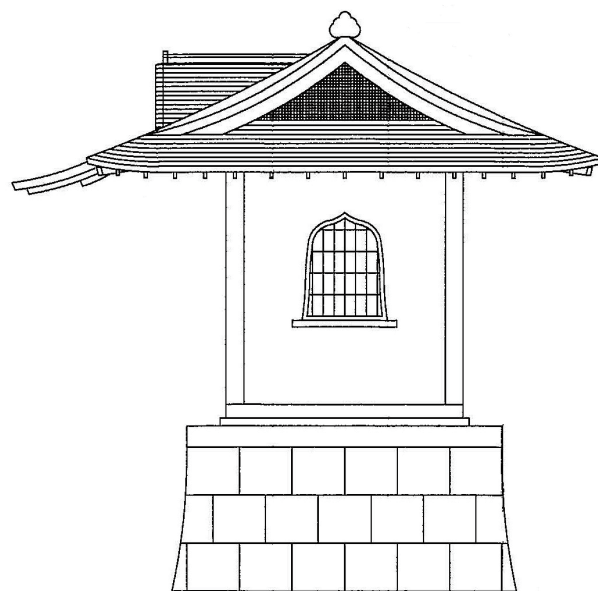


正面図



聖天堂完成予想図

大聖歓喜天尊像

真言
オンキリクギャクウンソワカ

側面図

当山住職八木恵生が、 後七日御修法定額僧に出仕 定額位に補任さる

京都東寺に於いて厳修される後七日御修法の内容につきましては前号にて詳細を掲載したとおりです。去る一月十一日、時折粉雪が舞う極寒の中でしたが、各山から選定された二十一名の定額僧と共に仕出し熱帯を捧げて参りました。



進列

松過ぎて御修法に会ひぬ初緋袈裟

松の内が明けた正月十一日、毎年奉修される真言宗最高の大法（後七日御修法）に出仕をした。そして、この時正式な場で初めて緋色の袈裟の着衣が許された時の心情は感慨深いものであった。

初夢の覚めて園児の御宝号

東寺境内にある東寺保育園の園児達は、御修法期間中一日三座の行列の往復を拝む為、参道に整列して合掌し大きな声で『南無大師遍照金剛』の御宝号を唱え続けるのであります。二葉学園の園児たちの姿と重なり感涙に咽んだのであった。



参拝を終えた勅使



各派管長と出迎えの参拝者たち



還列